（３）研究内容

A 研究の動機•目的

　昨今、アニメや漫画の舞台となった場所を巡る、いわゆる聖地巡礼をする人が増加している。またその舞台となった自治体もそれに呼応して、町おこしをしようとするケースがみられることが多い。そういった事態もあってか、最近では検索すればすぐに調べたいアニメや漫画の聖地がわかる。ところが困ったことに聖地は有名建造物だけにあるわけではない。たとえば、住宅地の中にあることもあるし、公共交通機関などからは遠くはなれた僻地にあることもある。そういった場所に向かうときに「車」を利用する需要が存在する。しかし残念なことに車で聖地を巡礼するための便利なツールが存在しないのが現状である。そこで我々はその問題を解決するために、DENSOが提供しているnaviconというAPIを用いて車で聖地を手軽に巡礼することができるアプリを作ることにした。

B 先行研究の要約

C 研究の過程

　開発環境　Android studio

使用API navicon(DENSO)

開発手順　Android studioでjavaを使用してプログラムを作成した。

　　　　　　適宜実際に手持ちのandroidで動作確認をし修正を加えた。

　　　　　　使いやすさと面白さも重視し、UI,UXに工夫を施した。

例としては選択した部分の色が変わるようにしたことや、キャラ

　　　　　　クターを用いた音声や画像による操作のエンターテイメント性の

　　　　　　向上を行った。

D研究の結果•考察

　従来の方法では、まず所在地をブラウザを利用することによって調べ、カーナビにその情報を自身で入力する必要があった。しかし今回の研究により、その手間を省き検索した所在地の情報をボタン一つでカーナビに送ることができるようになった。

E本研究で得られた成果

　Dの結果によって、車で聖地の巡礼をすることへの負担が軽減されたことにより日本が推奨するクールジャパン戦略の推進に一役買うことができる可能性がある。先述したように、最近では聖地巡礼ブームに乗っ取って町おこしをする自治体も多い。例えば茨城県大洗市や埼玉県秩父市、鳥取県岩見町などが典型例である。しかし秩父のように公共交通機関からの利便性が高い自治体はともかくとして、街全体に聖地が広がっている大洗や、交通の便がよくない岩美町などは車の利用が必須である。このアプリを使うことで車を使う際の負担を少なくしたことによって、より手頃に聖地巡礼を行うことができるようになった。それに伴って公共交通機関から遠く利便性が低いために観光客を呼び込むことに苦戦を強いられていた自治体に対して貢献をすることができると思われる。課題としては、現在はあらかじめ入力されている情報をもとにしか聖地検索ができないことである。

F今後の発展と展開の可能性、今後の研究の予定

　Eの課題としてでてきたあらかじめ入力された情報をもとにしか聖地検索ができないことに対する問題を解決することが今後の発展につながると思われる。

これを解決するためには、利用者側自身が行った聖地に対する情報（位置情報、写真、感想など）を入力し共有できる仕組みを構築することが必要である。この問題点を解決することによって、アプリ内での情報量が増え、さらにユーザー人口が増加することによって更なる聖地巡礼人口の増加につながるという利点が生まれると思われる。また今後は広告などを取ることによって自治体そのものや関連企業などと直接コラボレーションできる可能性もある。

G教員または上級生の協力があった場合は、その役割

　当書類の作成における助言

H参考文献

　なし